（３）②様式第３号－２（報告書）

NITS・教職大学院等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 愛媛大学教職大学院　連携：松山市教育研修センター事務所
	事業名： NITS・愛媛大学教職大学院等コラボ研修
	研修等名： 【NITS・愛媛大学教職大学院等コラボ研修】 探究的・協働的な学びのための学級づくり・授業づくり研修
	開催日時：令和５年５月～令和６年２月 開催場所：対面：愛媛大学（愛媛県松山市文京町３番） 参加人数（総数）と参加者の属性：総数（４０人） （教職大学院教員２名、教育委員会関係者３名、学校関係者２８名、学生７名）

内容：

令和の日本型学校教育で示された「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進していく上で、実際に先進的に実践をし、成果を上げている学校の事例を基にして、学び合うことで、資質。能力の向上を図ることを目的として実施した。

実際には、「探究的な学び」の充実が叫ばれている中、「やらされ探究」や「這い回る探究」を繰り返している学校現場の現状を打破すべく、「探究」をカリキュラムの中軸に置きカリキュラムを創り上げている、軽井沢風越学園をモデルケースに、そこで展開されている学びの在り方について体験的に学び合えるようなプログラムを設定した。

2020 年に開校した軽井沢風越学園は、上述した探究を軸に、幼保小中の混在校として、多様な関わりと繋がりを大切にし、異学年合同で学ぶ良さを追究している学校である。図書館を校舎の中央に配置して、いつでもどこからでも学びに没頭できるシステムを構築しているところが、個別最適で協働的な学びを考えていくのに相応しいモデルだと考えたからである。また、今回講師をお願いした校長の岩瀬直樹氏は、元々埼玉県の公立学校教諭であり、公教育の可能性を信じて、現在も長野県近隣の公立校や教育委員会と連携して、ラーニングセンターを設置し、子どもの学びや育ち、見取りについて研究を進めており、愛媛県内の教員や学校、教育委員会にも大きな刺激と知見を得る機会となると判断して、実施した。

研修は 6 月 24 日に行い、前述の岩瀬氏と同校スタッフの大作光子氏の 2 人を講師に研修をしていただいた。大作氏は風越学園で図書館司書的な役割をするだけでなく、探究的な学びのカリキュラムを創り上げる「プロジェクトチューニング」の中心的存在として、毎年度の風越学園のカリキュラムを作成している方であり、今回は、そのプロジェクトチューニングの手法もご教授いただくことになった。

午前中は、風越学園で実際に行われているカリキュラムやプロジェクトの説明をしていただいたり、探究について子どもの姿で見取ることの大切さについて、グループで協議しながら考えを深めていくワークなどを行ったりした。その後、愛媛大学のキャンパス内を自由に散策し、「探究の芽」になるものを取ってきて、それを使って作品を創り、疑問や問いを生み出し、調べていくという体験型のワークショップを行った。参加者は、探究＝問いを磨く重要性について、実感を伴って考えることができていた。また、子どもの目線になって、学習材を考えていくことの大切さを学び直している様子が伺えた。

午後は、風越学園が限定３００冊で作成した、「プロジェクトの学びで子どもをつくる」を１人１冊ずつ提供していただき、それを読み取りながら、探究や個別最適で協働的な学びの在り方について、学び合う時間を設けた。岩瀬氏によると、このようにリフレクションや著書からの学び合う語り合う時間がとても大切だという助言をいただき、参加者もどっぷりと本の中に入り込み、深く探究していく様子が見て取れた。

最後に、それぞれが持ち寄った各校の総合的な学習の時間の単元計画などを紹介し合い、どのようにすれば豊かな学びになるかを検討し合う時間が設けられた。参加者は、自分事としてより良い学びについて考える機会を得たことに充実感が持てたようであった。

終日、心も体も頭もフル回転させながら、探究や協働について考えていく研修をしていただき、非常に濃密で中身のある研修を実施することができた。岩瀬氏・大作氏は今回の研修を単発にせず、学びのコミュニティを作り上げることの重要性を説かれており、今後も愛媛と関わりをもってもらえることや次年度も研修講師を務めていただけることに言及していただいた。本事業をきっかけに継続した学びができることとなった。

提供していただいた著書

成果： 研修後のアンケート（自由記述）

・非常に楽しく話し合うことができました。会のデザインが工夫されていことも理由だと思います。
・あっという間の研修でした。若い先生方が、一生懸命自分の授業の見直しをされていて、愛媛の教育が素晴らしくなる予感がしています。言葉の使い方がとても素晴らしく、楽しい研修会でした。素敵な本を真っ先にいただき光栄です。
・始めは、この蒸し暑い天気の中、なんでフィールドワーク!?と思っていました。でも、構内で植物を探すうちに、ジブリのアリエッティになったような気がして楽しくなりました。ただの草が突然、特徴を持ったひとつひとつの草になり、形や大きさの違いに気づき始めました。草は草なんだけど、綺麗な一本一本の草に見えてきました。不思議です。視点を変えると物事の意味も景色も変わるんだな!と思いました。
・今日の研修を受けて、総合的な学習の時間をもっと面白くしたいと思いました。そして、教師都合ではなく、本当の子どもの主体的な学びになるような、声かけや活動内容にしていきたいと思いました。また、着地点が変わること自体も楽しめる自分でありたいと思いました。
・子どもが探究したくなるために教師がどのような環境を準備するのか、どのような願いをもって取り組んでいくのかを考えさせられた気がしました。素晴らしいテキストをいただけたので、これから熟読して、さらに学びを広げたいと思います。私自身が頭を刺激され、まさに探究の世界へと導かれた不思議な時間を過ごすことができました。参加できて本当に良かったです。探究ってなんだろう？と、もっと仲間と語り合ってみたいと思いました。
・ここには、書ききれないほどの学びがありました。一つは、探究の楽しさ、面白さを自分自身が体験し、実感できたこと。その実感を通して、探究にとって大切な要素が見つかった。二つ目は、今の実践をさらに探究的なものにするためには、どのようなことが大切で、どう行動していけばよいのかについて自分なりの答えが得られたこと。最後に、自分のなかで新たな問いがいくつも生まれたことです。探究ってやってる人が楽しんでいることがやっぱり重要なんだと気づけました。

アイディアや工夫したこと：

・探究や協働的な学びについて、実際に先進的に取り組まれており、公立学校が参考にしてほしいモデルの学校から講師に来ていただくことで、自分たちにもできることがあると感じられるような研修の内容・流れにしたこと。
・体験やワークを多分に取り入れながら、参加者自身が探究的・協働的に学び合えるよう、事前に講師と綿密な打ち合わせをし、事後にリフレクションを時間をかけて行ったこと（研修が持続可能なものとなった。）
・研修自体の形やあり方を、参考にしてもらえるよう、そのデザインの仕方やポイントなどを、オープンにして協議し、各学校や機関で活用できるようにしたこと。

＜写真・図など＞

（左）オープニング　（中）ワークショップの様子　（右）講義、著書を使ってのワーク、学び合いの様子